図16　火山豆石（左）と火山豆石を含む凝灰岩の露頭（右）

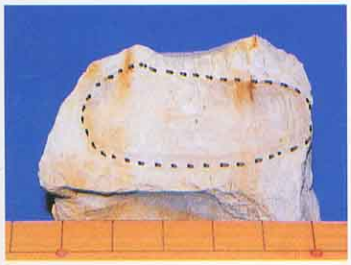

図17　アゲマキガイの化石（左、点線部分）と瀬戸内海産の現生標本
（標本提供　浜口浩一氏）

（マゲマキガイは、内湾の潮間帯のどろの中に、30～60cmのあなをほってすんでいる。有明海、瀬戸内海、児島湾などに分布。）

図18　池ノ原地区の珪砂採取あと（左）と両錐形の石英（右）

図19　高郷に残る亜炭坑のあと（左）と亜炭の燃える様子（右）